

審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第27回都道府県対抗ジュニアバスケットボール	期間 2014年3月27日(木)～3月30日(日)
開催地 東京、埼玉、千葉、神奈川	会場 東京体育館など
参加者 大川 潤	所属地区名 札幌
講師 中山氏 玉木氏	
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など	
【実技内容】 ①コール、ディレクションなどのシグナルの基本練習 ②リードの動き(ペネトレートの仕方) ③ハーフコート3対3(1番、3番、6番エリアからのスローイン) ④ハーフコート5対5 ⑤ハーフコート5対5→オールコート5対5 ※1往復	【感じたこと】 ①常にプレイヤーがいると想定して練習すること。 ②相手審判の位置を確認し、自分の位置をはっきり示す。 ③相手審判の見えない位置を確認し、ペネトレートする。
実技研修、座学研修等の記録	
【主審】 田辺 克規氏(滋賀)日本公認 【副審】 大川 潤 甲府西vs横手清陵(2Qのみ) 【主任】 中山氏 プレカンファレンスでは、午前の実技研修の中で学んだ「相手審判との協力」について確認した。 具体的には ①3番エリアの引き継ぎについて ②トレイルのリバウンドの見方 ③ハイポストの見方 ④5, 6番のローポストの見方 【中山氏より】 ①ドライブ時、もっとディフェンスを見る。そしてディフェンスの位置によってリードの動きの工夫をすること。 ②ステイしているときの体の向きに気を付けること。	
実践実技1	
2014年3月28日(金)	対戦カード 予選リーグ 沖縄 65vs54 静岡(男子)
副審 大川 潤	相手審判 本部:玉木 彰治氏(AA級)
ゲーム前のカンファレンス内容	
①相手審判の位置をしっかりと見て、カバーすること ②(私の)背が大きいのでプレーが見えやすいが、緩慢にならず、スペースをしっかりと捉える動きをすること。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 【主任】 秋田県:近藤 孝昭氏(公認)	
①最後まで手の基準がはっきり示せていた。 ②リードの動きに工夫があってよかった。	
【玉木氏より】 ①影響まで見て笛を入れること(Late CallでもOK) ②コーチの意図していることを感じて、軽い触れ合いでも笛を入れること。	
ゲーム感想	
①全体として落ち着いて判定でき、一貫性の基準を示せた。 ②相手審判との協力という部分では、相手審判にカバーしてもらった部分が多かった。 ③玉木氏は、私が見えていないという部分にはっきりと動いて位置を示していた。とても参考になった。 ④最終局面の工夫がもっと必要である。特にトレイル時。 ⑤ゲーム終盤で、相手チームがファールゲームに来たときに、コーチの意図した事を敏感に感じ取り、笛をいれるべきだった。結果的に相手審判を不安にさせてしまった。	

実践実技2

2014年3月29日（土）

対戦カード 決勝トーナメント1回戦 千葉 44vs67 大阪(男子)

副審 大川 潤

相手審判 東京都:齊藤 貴嗣氏(A級)

ゲーム前のカンファレンス内容

- ①リバウンドの見方
- ②3番エリアの引き継ぎ
- ③ローポストの見方

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 【主任】神奈川県:長谷川 裕氏(A級)

- ①1試合通して、スペースを捉える動きができていたので良かった。
- ②相手が肘から床に落ちたときなどにもっと気を遣うべき。それがゲームコントロールになる。
- ③センターの守り方については、不当な手の使い方が4Qまで続いていたので、前半で笛を入れるべきだった。

ゲーム感想

- ①リードの見方(開く)の工夫ができ、プレーの見方が変わった。
- ②相手審判の位置をよく確認し、ペネトレートし、協力して判定することができた。
- ③けがへの対応をもっと早く行く。それがゲームコントロールにつながり、信頼される審判になる。
- ④ペネトレートしすぎて次のプレーの捉えが遅れることがあるので、改善が必要である。
- ⑤相手審判にうまく気持ちをのせてもらい、そういう部分でもA級の方との差があると感じた。

まとめ

昨年に引き続き、とても貴重な経験ができた。2日間ともレベルの高いゲームの割り当てをいただき、大いに学ぶことができた。大会中に具体的なアドバイスをいくつもいただき、すぐに実践で試す機会があり、良い評価もいただき、自信につながった。しかし、最終日の割り当てを勝ち取ることができなかったのも事実であり、しっかりと結果を受け入れて、研鑽を積んでいきたい。

また、全国各地に仲間が増え、お互いの緊張報告し、切磋琢磨していこうという雰囲気も生まれ、モチベーションがさらに高まった。

昨年度の全国大会で感じたことは、「確認することの大切さ」であった。1年間、北海道の大会でもその部分を意識し、習慣化させる事ができたと感じている。今大会では、具体的なリードやトレイルの課題が生まれ、次のステップに進めてきていると感じた。昨年感じたように、これから北海道でどれだけモチベーション高く、良いものを習慣化させるかが大切である。北海道の仲間刺激を与える審判員になれるように、今後も謙虚に活動していきたい。

このような機会を与えていただいた道協会森野理事長様をはじめ、審判委員長の北本様のご配慮に厚く感謝いたします。ありがとうございました。